

医療介護福祉団体

2021.02.04 午後3時30分～午後5時
Web開催

No	項目	発言者	意見内容	意見に対する当日回答内容	まちづくり懇話会開催終了後の対応状況	担当課
1	感染予防対策	老人医療介護福祉関係施設	【PCR検査の助成】 <ul style="list-style-type: none"> ① 新規入所者等の入所前PCR検査の助成について、検討をお願いします。 ② 医療、介護従事者全職員の定期的なPCR検査の助成について、検討をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ①新規入所者等の入所前PCR検査及び、②医療、介護従事者全職員の定期的なPCR検査の助成については、現在検討中です。 	まちづくり懇話会開催終了後の対応状況 介護施設等新規入所者PCR検査事業を予算化 R3.3月からR4.2月末まで 職員向けPCR検査は検討中	高齢あんしん課
2	感染予防対策	老人医療介護福祉関係施設	【入所者の発熱時のPCR検査対応】 <ul style="list-style-type: none"> 土日祝日等病院が休みの場合のPCR検査の対応について、統一的な対応を要望できないか。(施設から病院等に直接連絡した場合は、検査できないが、救急搬送の場合は検査を行う等対応に差がある。) 	<ul style="list-style-type: none"> PCR検査を行うかどうかは、医師の判断となる。検査の実施は、医療機関の検査に関わるスタッフ等の調整の課題もあるが、土日祝日の検査対応について、道に要望する。 	現時点 動きなし 今後、道立病院と意見交換したい	高齢あんしん課
3	施設維持	老人医療介護福祉関係施設	【高齢者福祉施設への支援体制】 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が施設内で発生した場合の入院・隔離対応や、職員の発症に伴う職員不足の解消策として、町が北海道に対し要請の上、職員の派遣・応援等を迅速に対応できる体制づくりの検討をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員不足は、北海道では介護職員の派遣事業を実施している。当該施設で職員不足が発生した場合は、自らが開設する他施設職員の配置換えなどを講じて対応することとなるが、それでも必要な職員に不足が生じた場合は施設開設者から北海道に派遣要請することができる。 町も参考意見として検討します。 		高齢あんしん課
4	感染予防対策	訪問看護介護団体	【新型コロナウイルス感染症に対する知識の普及】 <ul style="list-style-type: none"> 感染流行地域との往来を可能にするための方法や対策を確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染流行地域との往来について、北海道からの指示により、「不要不急の往来」を控えるようお願いしている。急を要する又は必要な要件での往来は、予防対策を徹底して対応するように依頼しているもので、制限しているものではない。 		
5	感染予防対策	訪問看護介護団体	【新型コロナウイルス感染症に対する知識の普及】 <ul style="list-style-type: none"> 地域の情報発信は、どのようなことを行っているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報紙と町ホームページ、LINEにて情報発信を行っている。 町内もしくは檜山管内での感染症発生状況などの緊急性が高い情報は、町ホームページとLINEにて情報発信している。 LINEは、2月1日現在917名が登録。 		まちづくり推進課

No	項目	発言者	意見内容	意見に対する当日回答内容	まちづくり懇話会開催終了後の対応状況	担当課
6	経営維持	老人医療介護福祉関係施設	<p>【困りごと支援相談員の配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困りごと相談の内訳は、どのような相談が多いのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた商工業の事業所や個人事業主が国や道、町の各種支援事業の内容や申請方法、事業継続に関する相談及び申請補助が多くを占めている。 ・ 1月22日現在、226事業者、328件の相談状況となっている。 		まちづくり推進課
7	感染予防対策	医療介護支援団体	<p>【佐々木病院での感染対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道で発熱センターを設置したことは助かっている。 ・ 入院患者の感染予防について、直接面会は家族等にも控えてもらい、Web機材を導入し、Web面会などで予防対策を実施している。 ・ 病院内に出入りしている業者にも感染予防の徹底を依頼している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入院患者に対しての面会に苦慮していることなど、医療機関の方にはいろいろな面で負担、対応をいただき本当に感謝している。 		
8	感染予防対策	老人医療介護福祉関係施設	<p>【特別養護老人ホームえさし荘の感染対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者の面会は、感染予防の観点から直接面会ができず、スマートフォンや、iPadでの施設内及び自宅でのWeb面会を実施している。 ・ すべての家庭でweb環境が整っている状況ではないため、全員が面会できていない状況となっている。 ・ 認知症がある方は、会えないという不安要素が多いので、それをどのように解消するか苦慮している。 ・ PCR検査の件について、ショートステイ利用者や新たな入居者、またショートステイの場合は緊急を要する 경우가多く、病院での検査や、家族の健康状況などを聞き取りするが、PCR検査をしているか確認は取れない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の面会できる環境について、直接会う事が出来ない入所者の不安や、寂しさを感じることをどのように解消していくのかということも、長期化する中では大事なことだと感じる。必要な手立てや考え等をいただきたい。 ・ PCR検査に関しては、実施できる医療機関の道立病院が、検査を受入れることができるか調整させていただき、なんとか受け入れていただき、入所者等のPCR検査体制を構築できるよう進めていますのでご理解いただきたい。 		高齢あんしん課
9	感染予防対策	老人医療介護福祉関係施設	<p>【養護老人ホームひのきの職員体制について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状は、感染予防対策を中心に動いている。 ・ これからは咳や、発熱者が出た場合のシミュレーションやゾーニングの実施により、どうしても職員の確保が難しい部分がある。北海道に相談できる体制はあるが、それまでの間の職員の対応について、施設内で感染者が発生した時は、施設内感染者が増えることも考えられること、感染者等の2週間の自宅療養など、その間、介護をするうえでの施設維持をどのように確保したらいいのか悩んでいる。 ・ 施設運営は、自分たちの施設をまず守ることで精一杯な状況となり、感染者が発生した時の職員等の疲弊さは深刻になると思う。 ・ 北斗市の施設で今クラスターが発生している施設と情報交換を行っているが、施設の職員に精神的な負担がすごく強くなっていると聞いている。管理者としては事前に対応策は考えなければならない。 ・ 檜山管内でも連携できる対策チーム等を独自に立ち上げるのも一つの方法なのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各施設でも同じ課題・悩みを抱えていることから、江差町としてできることとして北海道に働きかけをすること、そのようなことを精査し、できる限り歩調を合わせ、対策を講じていけるように連携したい。 		高齢あんしん課

No	項目	発言者	意見内容	意見に対する当日回答内容	まちづくり懇話会開催終了後の対応状況	担当課
10	感染予防対策	老人医療介護福祉関係施設	<p>【入所者の発熱時のPCR検査対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前意見提出の回答にもあったが、介護従事者などの医療介護関係者等は休みがなく、365日利用者を守らなければならない。 そのような状況の中で利用者に対する対応は、病院が休みの日に電話しても対応してもらえない。介護施設関係者は365日、緊張しながら対応しているため、病院の休日対応について町と道が医療と介護の連携部分などを率先してバックアップしてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常に大きな課題であり、暦の上では土日祝日があるが、医療介護福祉関係で働く方、入所しての方にとっては休みがない状況をどのように解消するのか。北海道や町として、課題を整理し、対処できるように取り組んでいきたい。 		高齢あんしん課
11	感染予防対策	訪問看護介護団体	<p>【江差町社会福祉協議会の取り組み状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報提供は町民としては、心強く思っている。 紙ベースの文字も見やすく、内容も簡潔で分かりやすい。 今後コロナ禍の長期化の中で、家で出来るストレス解消法、簡単に体を動かす健康法等を一コマ乗せてもらいたい。 小中学校に対する支援対策、学校や保育園に対する支援対策について、懸命に頑張っている子供たちにも大きな勇気と元気につながる施策だと思う。 文化会館のトイレ洋式化対策は、町民が直接実感できる。 日常の病院診療は、医療機関、町の施策努力によって、スムーズに受診出来ていると思感謝している。 困難の中で安心感が得られていることは重要。 社協のデイサービスは、感染予防策を講じながら職員で頑張っている。 介護職員やヘルパーの職員補充が課題の一つになっている。 社協はコロナ感染症の影響による生活福祉資金特例貸付の窓口となっているので、職員一同総力を挙げて相談対応に努めている。 今後は、地域福祉活動に力を入れていきたい。 職員体制が不足しているが、ボランティア等との連携を図りながら体制を整備し、コミュニティサロン活動等に力を入れ、地域の触れ合い、笑顔の輪を広げていき、地域の企画に協力したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ストレス解消法について、長期化する中で必要なことであり、周知方法等を考えていきたい。 ヘルパー等の確保等、難しい面があること、また生活支援貸付の窓口の実施などの協力をいただき、感謝している。 引き続き連携しながらコロナ禍での明るい地域を作りのため、一緒に考えていきたい。 		高齢あんしん課

No	項目	発言者	意見内容	意見に対する当日回答内容	まちづくり懇話会開催終了後の対応状況	担当課
12	感染予防対策	訪問看護 介護団体	<p>【江差地域訪問看護ステーションの取り組み状況等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江差地域訪問看護ステーションは、利用者が50名いる。 コロナ禍になってから咳、発熱そういった呼吸器症状を出した人が何名かいるが、その際は迅速に社協の輸送サービスや、道立病院での受診等をスムーズに実施できている。私たちがフェイスシールドや防護服等を着用し、感染予防しながら対応し、協力を得て訪問事業をしている。 訪問看護ステーションの訪問看護師は4名いるが、利用者も増え、訪問区域も広いことから、もし新型コロナウイルス感染症を発症者が発生した場合は、影響も大きいので、職員で「曝露（ばくろ）しても感染しないそういった免疫力を自分たちが持とう」ということを合言葉にしている。 利用者は、親族が本州あるいは札幌等にいる方もいて、家族と1年以上面会できない人もいると思う。 長期化する中では、どのようにして人としての生活、営みを守り、感染を予防するかということが大事だと思う。このことから、ウイルスに曝露（ばくろ）されても感染しないように免疫力を高めるということを考えている。 情報を江差町からも発信してもらい助かっている。 情報内容は、どのようにしたら安全が確保できるかという視点からも情報発信してほしい。 発熱だけではなく、日常的な手洗いや、人と距離を取る等の情報発信をしながら、感染者が発生した場合は「どこで、どんな状態で発生したのか」、「現状の感染者人数がこの地域にいるのか」などの情報も医療関係者や、介護従事者に発信してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 江差町として情報発信している内容は、基本的に北海道が発信している感染の詳細を公表している。 江差町は、保健所を持たない組織で基本的には保健所が感染対策を行い、感染予防の対応を行い、北海道が統一的に情報発信している状況であり、江差町は北海道より詳しく状況把握する事が出来ない。 また個人情報なので、直接的に保健所から情報提供をもらえない状況である。 どのような状況で、どのようなことに気を付けなければならないか、しっかりと周知しなければならない。 感染予防のため、安全を保つためにどのようにしたら良いのか、わかりやすく、行動に移してもらえるような方法で周知する。 		健康推進課
13	感染予防対策	老人医療介護 福祉関係施設	<p>【入居者生活介護ケアハウスかもめ荘の取り組み状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍になり、約1年が経過し施設的にも新しい生活スタイル方式で、予防対策の徹底を実践し努めている。 コロナ禍が長期になって、面会方法について、2月からタブレットによるLINE面会を実施している。 入居者に対しての施設内行事について、十分なサービス提供ができていない。 このような状況の中で、新型コロナウイルス感染症の早期終息を望むところですが、いろいろな施設での経験や教訓を参考にしながら感染予防対策に努める。 医療介護福祉施設で知りたいのは、町や北海道、国からの情報なので、今後も情報の提供をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、町が持つコロナ感染者等の情報は、満足できる情報を発信できていないと思う。 檜山であってもどこであっても、感染予防対策は変わらないので、感染対策に協力をお願いする。 		

No	項目	発言者	意見内容	意見に対する当日回答内容	まちづくり懇話会開催終了後の対応状況	担当課
14	感染予防対策	老人医療介護福祉関係施設	<p>【カタセールえさしの取り組み状況について】</p> <ul style="list-style-type: none"> カタセールえさしの感染予防は、入所者と通所者をできる限り接触しないようにしている。 面会も、オンライン面会にしているが、実際の面会方法は、ガラス越しに笑った顔が見たいという家族の希望があり、ガラス越しの面会が多い。 感染予防は、職員だけではなく、出入りしている業者にも徹底してもらっている。 感染の対策は、期限がない中で苦勞をして、できるだけ役割を決め、感染予防の徹底に努めたい。 職員も感染対策として、職員家族を含めて、東京や札幌などの感染者の増加地域に行ったり、家族の帰省について協力をもらっている。接触を持った場合は、2週間程度の自宅待機で対応している。 そういう状況の中では、職員自宅待機などにより、従事者が減るため、職員にはできる限り協力してもらっている。 一般の職員や介護職員だけではなく、事務の職員も含め、できることを分担して感染予防の徹底に務めている。 コロナ禍になり約1年経ち、職員は緊張感の中で日々疲弊している。特に北海道発表の3時以降になると、檜山管内で感染者の発生があるのか不安の中で、情報を収集している。そのような緊張感の中で家族や利用者の協力を得ながら働いていることから、町として支援金や、協力のようなことを検討はできないか。 クラスターが出たところの職員や管理者のコメントを聞くと感染対策は実施していたが発生したと聞いている。現在は、感染対策を実施していないところはないと思うが、予防対策は実施し過ぎるということはないので、それぞれ役割を決めて今後も感染対策の徹底していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 入所者と通所者の接触はさせないことへの徹底した取り組み。 オンライン面会だけではなく、ガラス越しで面会の実施。 職員の対応で感染爆発地域の往来を控えて、自宅待機などの措置も実施している。 緊張感の中で働いている職員に町としても支援をしてほしいという要望だった。 一度クラスターが起きれば、大変な事態になる施設を抱えている状況で、日々緊張感の中で対応している状況を踏まえて、江差町として優先順位をつけ、必要な対策を検討していきたい。 引き続き、いろいろな面で指導や意見をいただきたい。 		健康推進課

No	項目	発言者	意見内容	意見に対する当日回答内容	まちづくり懇話会開催終了後の対応状況	担当課
15	感染予防対策	医療介護支援団体	<p>【感染予防対策等について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医者立場として話させてもらう。 ・ 外来の現場も、往診の現場も、緊張感を持った中で対応している。そのおかげで、大きな問題の発生がないと思う。 ・ 他の地域の患者や、医療者等と連絡を取り合うことがあり、コロナにかかった時に何が怖いのかというアンケートでは、人にうつすことが怖い、患者に聞いても、うつすのが怖いと話す人が多く、何を言われるか不安という意見が多かった。 ・ みんなが人に迷惑をかけることを恐れており、コロナにかかったら迷惑だと思われるという気持ちの人が多く。 ・ コロナは、みんなで頑張って防がないといけない存在なのだが、一方では、既に市中感染の状態になっていることから誰がかかってもおかしくない状況になっている。その状況から、あなたの行動が悪かったということはない。照井町長が文書でお互いあたたかい目線だと書いていたが、全くそのとおりだと思う。 ・ 他の地域では、知り合いの人が感染したということで石を投げられたり、介護施設で働いてる人が上司から送迎の途中、「コンビニに寄ったらだめだ」と言われた事例や、ワクチン接種について、介護職員は「接種しなければクビだ」と、高圧的言われ、副作用が心配であり「今の施設をやめようと思う」という相談を受けたこともあり、皆の心の中に寛容さがなくなってきた。 ・ 皆の心に寛容さがなくなると、他の人に相談することもできず、相談をできない人たちが街を歩いたりすることがあると思う。 そのようなことが無いように、相談できる地域づくりが大切だと思う。 ・ SOSを言い合える関係、環境、地域づくりが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人にうつすことが心配で人に迷惑をかけることが、自分がかかるよりも心配であるという声がある。 ・ ワクチン接種も副反応が心配であること、ワクチン接種を受けない場合はクビにされると言われたというようなことが言われるような状況になってる。 そのような状況の中で人の寛容さがなくなっている。 ・ 江差町はあたたかい街だと思うが、もっと言い合える、支えあえる環境を作っていくべき、SOSを言い合える関係を作っていくべきという意見だった。 ・ そのとおりだと思う。1年以上続くコロナの中で私自身も一人暮らしをしているので、「寂しくなったり」、「人と話をしたい」、「飲みに行きたい」、「あの人どうしてるかな」と思うことが多い状況。それが高齢であったり接点を持たない人たち場合は、なおさら不安を感じていたり大変な思いをしていると思う。このような点は、行政は把握できない部分なので、明日の町内会、自治会との意見交換の際、地域の中でどのような支えあいができるのか話してみたいと思う。 		

No	項目	発言者	意見内容	意見に対する当日回答内容	まちづくり懇話会開催終了後の対応状況	担当課
16	感染予防対策	訪問看護 介護団体	<p>【感染予防対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 通所のサービス利用者は、遠方の家族もいる。そのような遠方の家族が帰ってきた場合は、2週間通所ができなくなる。家族も心配で来ているが、来ることにより、その先の2週間一人暮らしを続けなければならない、看護師等も会えない状況になってしまう。その状態が続いた場合、本人も家族も体調を崩したり、状態の悪化に気づかないことがある。 先日、電話で大丈夫と話していたが、救急車で運ばれ、現在入院しているという事例がある。 密を避けるため、介護予防教室などの中止により、元気だった高齢者でも、外出が減り筋力の低下、うつ症状の発症がある。そのような方の家族は、ほとんどが遠方から来ることができない状況が多く、町内会長や介護認定員など、常日頃その家に入りしている方が異変に気が付いて連絡をもらうことがある。その部分を地域全体で支え合えたらと思う。 発熱外来について、車いすやストレッチャーを利用するため、介護タクシーや介護保健のサービスを利用する場合がある。その際に利用者がコロナ感染者ではないか、その人のサービスを停止しなければならないのではないかと不安がある。また、誰が病院に連れていくのか、誰が病院に随行するのかなど困ったことがあった。 発熱外来の受診について、受診の翌日以降に再度出直すケースもあるが、1度の受診で対応してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ予防対策として、人との接触を軽減するための対策が、高齢者の方の体調を崩したり、うつ状態の発症と異変が起きている状況につながりかねないことについて、どのように解決できるのか、行政としても考えていかなくてはならない。 新型コロナは、拡大しないが、その対策の影響により、いろいろなところに負担を強いて、悪い状況が起きかねないと思う。 発熱外来について、自分で病院に行けない人は、どのような対応ができるのか不安だということでしたが、万が一という場合は、救急車を呼ぶという判断もある。そこまではいかない状況の場合はどのように対応したら良いのか、行政としてもどのようにすべきか考え情報共有したい。 	<p>まちづくり懇話会開催終了後の対応状況</p> <p>移送サービス、発熱外来で生じた詳細について、再度詳細の説明を求めた。</p> <p>既に待合室の受入れなど、病院側の改善が図られていた。</p> <p>困ったことがある事例の紹介であったことを確認した。</p>	高齢あんしん課
17	施設維持	老人医療介護 福祉関係施設	<p>【職員のモチベーションの維持について】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループホーム・和では、毎月1回全体会議を行っており、その中で、毎月標語を作って発表しようと思っている。 今回は、「イライラしないで笑顔いよう、今を笑って明日へつなぐ」「人が悪いのではなく、コロナが悪いの人を責めないでください」この2つを標語に掲げて、職員の日々のイライラを少しでも軽減し、なごませ今月を乗り切ってもらおうと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療介護福祉の仕事をしている皆さん、施設を抱える皆さんなどは、日々緊張の中で仕事をしていると思うので、どこかで息抜きやリフレッシュをしないと、続かない状況であり、負担をかけていると感じている。 		